令和３年度　社会教育委員　第３回会議

令和３年 10 月 30 日（土）
10：30～13：30
初倉公民館第３集会室

【出席者】

社会教育委員：田代保廣、萩原淑恵、青山朝美、熊谷紀男、鈴木美香、西田正鋭

教育委員会社会教育課：小林社会教育課長、伊藤課長補佐兼社会教育係長

【会議の内容】

１　開会（事務局：伊藤）

２　議長あいさつ（田代議長）

・２週間ぐらい前の話しだが、第６波が来る前に北海道に紅葉を見に行ってきた。ちょうど新雪もあり、とてもきれいだった。
・家庭教育の在り方、提言だが、コロナの影響を受け、学校でも人を集められないということで、周知が難しい状況が続いているが、園長会に続いて、校長会で周知活動について説明してきた。来月以降には教頭会にも説明したい。
・委員の皆さんもそれぞれの立場で、提言を広げるよう周知していただきたい。
・お手元に配布された広報ですが、こちらで特集を頼んだわけではないが、広報課から提言をきっかけに特集を組むことを考えてくれたらしい。
・本日は現地の視察を兼ねて学習サポートと子ども食堂をみていただくことになっている。松本委員の中学高校生編の執筆者としての思いを聞かせてもらうはずだったが、残念ながら体調不良ということで欠席なので、次回にということになる。よろしくお願いいたします。

３　課長あいさつ（小林課長）

・今日は、いつもの会議と趣向を替えて、「学習サポート事業」と「はつくらこども食堂」の視察にご協力いただきありがとうございます。
・先ほど議長のお話しにあったとおり、広報しまだの 10 月号に家庭教育の特集で、こちらから広報に頼んだわけではなく、広報から声掛けがあった。広報課の思いとしても家庭教育が重要視されているということで企画を組んでくれた。家庭教育の在り方、提言のＱＲコードも記載されている。コロナ禍で、家庭教育や社会教育というものが改めて重要視されて、　生きる力を再構築、見直されていると感じている。本日もよろしくお願いします。

４　視察

⑴　学習サポート事業　会場視察（第１、第２集会室）

⑵　はつくらこども食堂　調理準備作業の視察及び食事準備（調理室、第３集

会室）、食事（第３集会室）、子供達の食事風景等の視察（和室など）

⑶　学習サポート事業　会場視察（第１、第２集会室）　概要説明、質疑応答（第３集会室）

【概要説明】

・クローズ方式を取っていて、プライバシーへの配慮などで、なかなかオープンにはできない。一方で、こういう事業もあるよということを知ってもらいたいという認識がすごく強い。いろいろなところで認知されないと子供達が集まってこないし、予算も取れていかない。委員の皆さんのような方々には積極的にアピールしたい。機会があるごとに知ってもらいたいし、皆さんには広げてもらいたい。

・初倉の特徴は外国人が多い。地域の特性がある。「しまだっ子」という名称は、島田の子を包み込んで抱っこしていこうとの思いがある。ねらいは３点ある。生活困窮というのがまず１番の根拠になる。それだけではなく、困難を抱える子供達の学びの場として提供する。それが２番目のねらい。３番目は、貧困もそうだが、虐待であるとか、それから知能的なものも連鎖する。あらゆるところが連鎖して、その連鎖は、なかなか断ち切れない。それを断ちきるというところをねらいにしているが、福祉課だけだと微力になってしまう。これはもう全てに言えるが、いろいろなところと繋がっていきたいという思いが私たちの中にある。いろいろなところと連携しないとなかなか有効な対策にはなっていかないだろうと。福祉課の事業だからと、ちょっと違うよというような意識を払拭していきたい。

・受け入れる子供において不登校がものすごく増えている。不登校ということにもターゲットを置いている。それから、ひとり親、子供の養育に課題、貧困でなくても家庭的に課題があることが多い。例えば、具体的にいうと虐待だとか。虐待のなかにはネグレクトもある。親御さんがなかなか養育できない、難病を抱えているという家もある。なかなかお母さん１人だけだと多くの子を養えきれない。外国籍の子供、その他、生活困窮だけでなく、受け入れる間口を広げて受け入れている。

・今、実施しているのは、今日ここは初倉公民館で 10 人程度を受け入れて、他にも「あけぼの」と大草でやっている。なかなか日にちが取れない。寺子屋事業をここでやっているが、それは水曜にやっていて、なぜ水曜日にやっているか、学校が早く終わるから。学校が無い日というのは土日しかなく、日曜日はやりたくないというのもあって、土曜日、水曜日を狙うしかないという感じである。来年は一中と六中学区に、３か所程度学びの場を用意する予定である。いずれは市内全部に作りたい。

・具体的にどういう子供達か、定員は 30 人だが、30 人集まっていて、初めは集まるかなと、そういう思いのほうが強かったが、蓋を開けてみると、それ以上に希望してくる子がいたりした。ただ、実際に全く来ていないお子さんもいる。そういう場合でも、何らかの関わりはもっていこうと、来ていなくても関わる方針でいる。

・どのような経緯で子供達がここへ集まってきたかというと、福祉課の対象が５人、子育て応援課が８人、学校が必要だと情報提供受けてアプローチした

という子が16人。参加している子供達の学校や学年は、二中（会場：あけぼの、大草)、初倉中学校の子供達。10月27日よりある小学校の子が一人入ってきたが、学区外だが、経過をみると遍歴の持ち主である。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが必要だということで、ここに繋がって来た。来年またリセットされるが人数を増やしてサポートしていきたい。

・サポーターが７人、ボランティアさんが４人、青山委員もそう。毎回来てくれる。ボランティアは無償で、他の方たちは有償。このようなスタッフでやっている。来年度以降増えていくということで、もし、事業に賛同して一緒にやってくれる方がいれば大歓迎である。

【質疑応答】

Q．母子家庭だからということは関係していないか。

A．関係していない。もと、その子供とお母さん、お父さんがいた世帯の中で問題が起きていたと。今は、離婚されている方を受け入れている。

Q．昔、母子寮に行ったが、95%が虐待を受けて逃げてきて、そこの寮で住んでいた。だから、夫はそこに居ることは知らなかった。

A．そこにいることを知られたくない。そういうところは最長何ヶ月とか、決まっている。母子寮など保護する施設で生活基盤を作ってから、地域の方に戻ってきて生活している方もいる。

Q.夫とは寄りを戻していないのかな。

A.そうですね、長い経過の中にはいろいろな方々が出てくるかもしれない。今は、生活を母子家庭としてやっている方が、地域に出てきたり、よその市から引っ越してきて。原則同じ市には戻らないようにと子育て応援課では、市域だけではなくて、引越しすることを勧めていると思う。

・離婚の原因はいろいろな原因があるが、旦那さんから虐待を受けて離婚してしまった、こういう姿を子供たちが見て育ってきているので、傷を抱えているし、暴力に対する偏見ということが生まれている。

Q．生活困窮の方が多いが、生活困窮イコール学習支援が必要って、即はならない。でもそういう傾向になりがちだということがあると思うが、様々な理由によって意欲自体も低下してしまうからなのか。

A．僕ら学校現場にいるとき、生活困窮イコール学力低下とはすぐリンクしていない。困窮だから学力が低いとか学習意欲が低下とか直接はしていない。生活困窮のお宅でもいいお子さんはいっぱいいる。必ずしも繋がっていない。ただ、率でいうと明らかに高いだろう。二中生でいったら８割は塾にいっている。そういう学習環境が貧困からきていることは予想される。実際に生活困窮の子達だけ集めてみると、やっぱり多いことは確かだなと思う。生活困窮の子達全員が希望して入ってきてるわけでもない。あくまでも希望。生活保護のお家でも、全員が入ってきているわけではない。

Q．勧めても入らない子達はいる？

A.そういう子もいる。

⑷　はつくらこども食堂　概要説明、質疑応答（第３集会室）

【概要説明】

・経済困窮、親のネグレクト、弧食など、生きづらさや寂しさを感じている子供に、温かい環境で食事を提供し、生きていくうえでの一筋の明るい光、明日も頑張ろうという前向きな気持ち、手を差し伸べたり、少し受け止めてあげられればというところから始めました。

・開催日時は、毎月最終土曜の 11 時半から３時までとしているが、今コロナの関係もあって、皆さん食べ終わるとそのまま帰ってしまって、あまり交流ということはできないような状況である。対象は誰でも来てくださいっていうことで、参加費は子供が無料で、大人が 300 円、今、予約制にしているが、子供が 50 人、大人が 30 人集まってくる。ボランティアさんもたくさん増えている。

・ボランティアは 40 人いて、毎回 20 人ちょっと、来てくれる。ありがたいことで、調理室が密になってしまうぐらい。中学生とか高校生はずっと続けてきてくれて、初倉中学校のときにボランティアをここで始めて、高校生になってからも続けてくれている。いつもボランティアの半分くらいは子供達で、楽しんでやっている印象。

・開催目的の１番には困窮家庭とか問題を抱えた子供の支援、あと子供の個食を無くす。課題として、実際は３番と４番、地域住民の交流の場と、お母さんの息抜きの場所が主目的になってしまっているので、どうやって１番２番をやっていこうかと。

・今考えているのは、困っていて帰る場所を必要としている子には毎日帰る場所が必要かなと。放課後に立ち寄って、そのまま御飯を食べて、なんならお風呂まで入って帰られる、そういう限られた場所、数人から始まるかもしれない。地域の交流の場としての機能は、こうやって月１回ぐらいやれればいいかな。

・もう一つが今月から始まった「みんなの駄菓子屋はつくらンド」は
町中ですれ違えば挨拶をし、井戸端会議が始まる、よその家の子供を遠慮なく叱りつけておじさんが存在する、そんな懐かしい昭和の時代の顔の見える地域社会を作りたい、地域ぐるみでこの育ててみたい　こういう思いから、始まっている。

・「中溝さんち」を皆さん御存知ですか。私も３回ぐらい行ったが、おばさんたち２人ぐらいがお店番していて、そこに小学生が買い物していて、また次の子達が来て、わりとのんびりした雰囲気でやっていた。それを想像していたが、やっぱり地域によっていろいろ地域性があるというか違うようで、今月もすでに３回開催しているが大盛況である。（１回目…103 名、２回目…81 名、３回目…126 名）

・特別支援の子達とか、車いすに乗った人達が大勢が来てくれて、いろいろな人が出入りする場所になっている。

・お会計も大変だし、くじ引きのコーナー、スーパーボールとか、けん玉が当たったり、そこがごった返して、当たるとカランカランと。駄菓子の販売と、あと小中学生のための学習スペースがあるが、あまり機能していない。

読み聞かせ、紙芝居、遊びを通して触れ合いスペースは、読み聞かせを始めるとお母さんや小さい子達が座って聞いていく。そういう光景が見られる。
・開催目的が放課後の小中学生の居場所づくり、幼児とお母さんお父さん立ち寄りの場それからゲームや昔ながらの遊びを通して地域の人々と子ども達の交流を図る、その結果、有事の際には助け合うことができる、全員が顔見知り、全員が繋がる初倉を目指しますということになる。こちらの思いとしては子供たちが家族以外の大人に見守られて、すくすくと育って、地域への愛着性を高めてほしい。そんな思いで活動している。

【質疑応答】

Q.駄菓子屋さん１回目は９月２日にオープンの予定だった？
A．コロナで９月が全部できなくて、10 月の 10 日の日曜日が１回目。
Q.毎週やる？
A.そうです。ただ、木曜日が埋まっていて、ホールが使えないときがあるので、どうしても月に１回ぐらいできないときが出てくる。
Q．学習スペースも片隅に作っている？
A.そうです。ただ、ホールの机が高い机しかなくて、和室の低い座って使う机をと思ったが重くて下に運ぶのは大変だし、公民館的にも移動は難しそうだったので、とりあえずカーペットを敷いて誰でも遊べるようにはしている。
Q．高い机だと具合が悪い？
A.椅子を用意しなければならなくなる。がやがや駄菓子屋やってる横で椅子に座って勉強するのもとおかしいかなと。
Q.自主グループとしてコラボできないかという話があり、はつくらこども食堂が３時までやっているなら、待っている間なのか終わってからなのか、子供に読み聞かせできないかと。講師を呼んできてスキルを高めてからになるが。集会室３は今日は私共が使っているが、いつもは空いていない？
A.集会室４と５を使っているので。割とこの会議室は空いている。
Q．駄菓子屋さんの読み聞かせは、誰がやっている？
A.笑いヨガの永田さん。ボランティアのおばあさんの中にも紙芝居をやっている人達がいて、ぜひ紙芝居やらせてほしいということなので、今後は紙芝居もやってくと思う。横山議員も手伝いにきてくれる。
Q.災害時の避難所の運営で、一番大変なのはボランティアのコーディネート、受付をしたり。こども食堂などは青山さんが全部やっている？
A．ここは縛りなくやっているので、次来れる人って、一切やっていない。それをやると来たくなくなったり、組織の中に入れられたような感じがするのでは。来なければ、いる人だけでやろうと。でも絶対くる。
Q．来たくなる理由とは？
A.それは判らない。ボランティアさんも御飯は食べて帰る。あと、余ったときは、皆さん主婦なので持ち帰る。それはうれしいかも。
・いろいろなところでボランティアが減少したり、入ってこない状況が多い。何かメリットがないと。そこに参加するモチベーションが。私の場合は、子供達の笑顔をみることがモチベーションなので。

・子ども達の居場所になっていたり、自分が役に立っている、自分がやっていると。そういう意識が子供達のなかにある。
・お弁当の配布のときに、ちょっと待たせてしまったと、一人の高校生が申し訳ないと落ち込んでしまった。お母さん達がちょっといらいらして。自分のこども食堂として捉えているのかも。
Q.ボランティアは何人くらいか。
A.こども食堂の大人が 30 人ぐらい。駄菓子屋さんは、７、８人です。
Q.理想からいうともっと欲しいか。
A.１日７～8 人入ればやっていける。２～３人来られないとなると厳しい。
Q.時間的に中高生は厳しいか。
A.そうですね。中学生はお客さんで間に合えば１年生の子が１，２人は来るかな。初小の子が 45 人、幼稚園・保育園・子ども園の子と初南小や湯日の子は一旦帰ると難しい。初南小の子が２人この間来た。話がきているのは移動販売。公会堂などに回る、出張販売。

５　議　題
⑴　上記視察に係る意見交換
・学習サポート事業とはつくらこども食堂が繋がっていることが有難い。これから地域の活動と繋がっていくとして、駄菓子屋さんと繋がっていければと思うし、六合地区も子ども食堂と繋がれば。青山さん達の活動は就学前のコミュニケーションの場、本当に必要な子というのは少ないと思う。学習支援の子達は必要なので、お米も貰っていける。子供の中には要らないという淡泊な子もいる。
・第３集会室が空いているなら、10 分でもいいから講座が出来ないかな。こども食堂を待っている間がいいのか、終わってからがいいのか。
・学習サポートは親御さんが来ないので、子供を通して冊子を渡すことはできる。
・Ａ４裏表で年代別とかで。
・少し考えてみますか。
・もし作るなら全部載っていると見逃してしまうので、項目ごと、例えば、１番は読み聞かせ、２番目はお話タイムとか、字が大きくて、引っかかることがあると、次もあるかと興味をもってくれる。
・外国籍の子が小学校のときは学習に上手く入れなかったが、中学になって優秀な子になった。
・あけぼのの外国人の子も、約分のやり方は判っているのに日本語が判らないからできなかったけど、こうだよと教えたらすらすらできた。
・外国人の子達も地頭が良い子が多い。

⑵　報告書「家庭教育の在り方」プレゼン模範説明（執筆者の想いの確認）
中・高校生編
・執筆者である松本委員が体調不良で欠席のため次回に延期とする。
・ただ、次回開催の前に、中学校で、これを説明してくれという依頼があるか

もしれない。

⑶　令和４年度社会教育団体に対する補助金の交付について
・令和４年度社会教育団体に対する補助金の交付について、ご意見を伺った。
・以下、質疑以外の意見はなし。
Ｑ.前年度と変わったところは。
Ａ.通学合宿、日本スカウトジャンボリー、ささま国際陶芸祭。
Ｑ.アートコミュニティは、大井川鐵道の無人駅のこと？
Ａ.それは、クロスメディアしまだへの補助金になる。

⑷　令和４年度中部地区社会教育委員連絡協議会合同研修会について
・令和４年度の中部地区社会教育委員連絡協議会合同研修会は、島田市が当番市となる。
・当市では平成25年度に開催しており、９月27日金曜日に、宮美殿で、渋谷常葉大学教授をお招きし、「未来を共に考えよう―欧州におけるフューチャーセンターの試みから―」と題し、講演を開催した。
・約100人参加、情報交換会に約60人。
・来年度の実施に向けて、おおよその実施日と会場を決めていきたいと考えている。
・来年度の中部地区理事会時には、開催日時、会場について報告できるように年度内に決定できるようにする。講師との日程を合わせなければならないので、講師選定でこの方という方がいればご紹介いただきたい。次回に、案の１つを事務局で用意できれば提示したい。

６　報　告
⑴　中部地区社会教育委員連絡協議会合同研修会（10月23日（金）Web開催）
委員：４人参加
演題『社会教育の意味と社会教育委員の役割』　鈴木眞(ま)理(こと)氏
【出席者の感想等】
・社会教育委員は自ら勉強してほしいということだった。社会教育委員の基盤を強化させる。Web研修ということで聴講者の反応がみえにくく、講師の方は、やり難そうだった。

⑵　関東甲信越静社会教育研究大会東京大会　11月11日（木）開催
開催方向変更　（東京都内の社会教育委員等の参加限定と録画配信）
・コロナの感染防止のため、大会の参加対象は、東京都内の関係者のみということで録画配信を予定しているとのこと。
・詳細等判り次第報告する。
・特に質疑なし。

⑶　島田市成人式（２部制による開催）　について
・成人式は、令和４年１月９日（日）に開催する。
・会場はローズアリーナを予定している。
・対象は平成13年４月２日から平成14年４月１日生まれのかた
　男性536人、女性496人、計1,032人が対象
・コロナの感染予防対策のため、式典を２回に分け、開催。
　午前の部：島一中、島二中、旧北中学区と附属中
　午後の部：六合中、初倉中、金谷中、川根中
・来賓や主催者もお住まいの学区をベースに午前午後に分けて出席を依頼する予定。
・田代議長には午後の部へご出席をお願いしたい。
・議長を除く、社会教育委員の皆様には、例年、新成人、来賓の受付業務にご協力をいただいており、今回も同様に、お願いしたいと考えている。皆さんには改めて依頼をさせていただく。
Q.昨年度も、このような形で実施しようとしたが、感染拡大で変更した？
A.その通りです。

⑷　明るく安心して暮らせるまちづくり市民大会の開催中止につい　て
・「明るく安心して暮らせるまちづくり市民大会」は、昨年度に引き続き、今年度も、コロナ感染防止のため、中止とした。なお、青少年育成支援センター運営協議会の表彰は、こちらも昨年度と同様に、参加人数を限定し、規模縮小して表彰式を11月20日（土）に開催する。
・特に質疑なし。

７　その他
・次回（第４回）の開催日について、おって事務局より日程調整の連絡をするとして了承を得た。
８　閉会（事務局：伊藤）